

レポートフォーマット

β short

1 はじめに

2 ストーリー重視の「報告・相談型」レポート

研究開発の過程をそのままストーリー化し、報告・相談をしやすくするフォーマット。

→ 「進捗報告」・「論文・技術報告」

1. 背景・前提

従来どうだったのか？前回まで何が進んだのか？何が前提となっているのか？

2. 課題

今、直面している課題は何か？なぜそれを課題と捉えているのか？課題に対する仮説は何か？

3. 手段・アプローチ

どう解決しようとしているか？なぜその手段を採用するのか？それはどんな意味を持つのか？

4. 効果・結論

結果から何が言えるのか？なぜそれが言えるのか？次はどうするつもりか？

2.1 進捗報告：例

前回は～をした。問題点は、～であった。そこで、今回は～をした。理由は～だからである。その結果～ということがわかった。理由は～と考えられる～まとめ～

3 提案型

最初に効果を提示し「いつまでに、こういうことが実現できる」と主張する。

→ 「企画書」・「プレゼン資料」

1. 効果

2. 結論

3. 背景・前提

4. 課題

5. 手段・アプローチ

3.1 企画書：例

1. 社会・ビジネス的な効果 2. 技術的な効果 3. 完了要件 4. 背景 5. 社会・ビジネス上での課題 6. 技術的な課題 7. 課題の解決方式 8. スケジュール概要 9. 必要なリソース

4 論文

1. 先行研究関連する先行研究を紹介し、本研究のオリジナリティを説明する 2. 課題本研究で解決したい課題 3. 手段課題を解決するためのアプローチ 4. 結果手法によって得られた結果を提示し、課題がどこまで解決できたかを説明する 5. 考察そのような結果を得た理由を検討する 6. 結論 1 5 のプロセスを要約し、今後の課題を示す。

5 チェックポイント

従来技術の把握は正しいか？
その課題が従来技術では解決できない原因に説得力はあるか？
基礎との差分「のみ」が抽出できているか？
課題と結論が裏返しの関係を満たしているか？
その結論が導ける理由に説得力はあるか？
目的に応じた構成を選択出来ているか？

6 優れた課題の条件

1. 解決の基礎が存在する (課題を解決可能とする条件が全て揃っている)
先行技術を正確に把握することが重要「正しく理解された基礎」が「全て明らかになっている」ことが、最初に満たすべき条件
2. 解決の結果が次の展開の基礎となる
理想と現実とのギャップを直線で捉える。順に「問題を克服する」
3. 優れた仮説を生む

参考文献

- [1] 藤田肇, (2019), ”成果を生み出すテクニカルライティングトップエンジニア・研究者が実践する思考整理法”, 株式会社技術評論社